

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(明野高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		○農業、衣・食、福祉の専門高校として、それぞれの分野の専門的知識・技能の習得に取り組み、卒業後に実社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成 ○地域産業との連携を推進し、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○習得した専門知識や技能を生かし、自立した社会人として地域に貢献し、地域を支え、地域とともに生きていくことができる生徒 ○社会人としてのマナーを身につけるとともによりよく生きる力を自ら育むことのできる生徒 ○様々な課題を自分事として捉え、主体的に行動し、自己実現を図ることができる生徒 ○基礎学力の向上および資格取得に高い目標を掲げて取り組むことのできる生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
(2)	ありたい教職員の姿	○生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、授業力向上に向けた自己研鑽に励み、様々な主体と相互協力しあえる教職員 ○目指す学校像や育みたい生徒像の実現に向け、主体的に課題発見、解決、改善に取り組む教職員 ○生徒の成長を自らの喜びとして、いきいきとやりがいを持って働くことのできる教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		〈生徒〉 生徒意識調査の結果から生徒による学校評価の平均が令和2年度から微増を継続してきており、学校生活には概ね満足している。 〈保護者〉 保護者アンケートの結果では「明野高校に入学させて良かった」「生き生きと学校生活を送っている」という回答がともに 90%を超えており、学校への満足度は高い。 生徒や保護者が望む進路希望実現に向けた的確な指導、助言が期待されている。 〈地域〉 地域産業界等との連携事業、教育活動のさまざまな情報発信により生徒の日頃の取組に理解を示してくれている。
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 生徒や学校のこまめな情報共有 〈中学校〉 卒業生の近況の情報共有。 本校が実施している教育活動の情報発信 〈地域社会〉 専門高校の強みを活かした地域貢献、地域産業活性化への取組	〈家庭〉 本校教育活動や生徒の自立に向けた指導への理解と協力 〈中学校〉 継続して効果的な指導に取り組めるよう、情報共有を密に図る 〈地域社会〉 キャリア教育を充実させるために生徒が活躍できる場の提供およびさまざまな取組での連携強化

(3)前年度の学校関係者評価など		・情報発信の重要性や必要性について十分理解されているので、今後もさまざまなツールを活用して中学生や地域に広く生徒たちの活動や学校の現状を発信してほしい。 ・今年度は新たに「小俣町まちづくり協議会」との連携が行われた。商工会との連携も含め、地域のイベント等にも積極的に参加して明野高校の強みを大いにPRすべきである。 ・小俣町は南勢地区で数少ない人口減少がない町であることから大きなチャンスを発見できる可能性が十分ある。より積極的に交流、連携を図ることで、地域の活性化実現に明野高校生の力を発揮してほしい。 ・小俣中学校での「いのちの授業」は大変意義のある授業であると感じているので今後も継続してほしい。また、今年度実施した人権教育アライメント事業で明らかになった小中高の児童生徒が交流する活動を是非今後も考えてほしい。
(4)現状と課題	教育活動	生徒意識調査では、多くの生徒が授業には真面目に取り組んでいると評価しており、授業は理解できているという評価も微増の結果となっている。この結果を教員側が受け止め、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に取り組む必要がある。 保護者アンケートにおいて生徒の進路について丁寧に指導してくれるという質問に対して保護者の満足度は、取り組みを理解いただいていないのか低い傾向が見られる。 このことを受け止め、キャリア教育の推進にさらに取り組むとともに、保護者や生徒との情報共有をより一層密にして、希望が実現される進路指導に取り組む必要がある。
	学校運営等	学年主任を担任兼務として分掌の人数の増員を図った。このことで、分掌が担任団をサポートする体制作りが整った。担任と分掌で構成する学年団を生徒育成の単位として組織的に生徒のサポートや育成を図っていく必要がある。 4つの学科がそれぞれの教育目標実現に向けて特色のある教育実践を図ることができるよう取り組んでいくことが必要である。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	○生徒がよりわかりやすい授業を実践するとともに、主体的に探究活動に取り組む能力の育成に努める。 ○生徒同士が協働する活動を促進し、新しいアイデアや解決策を創造できる能力を育む。
学校運営等	①教育活動に、教職員一人ひとりがやりがいを持って取り組めるように、情報共有や助け合いなどによるチームとしての学校づくりを進める。 ②校務の効率化や職場の環境整備に努め、総労働時間の縮減を目指すとともに、働きやすい環境づくりを進める。 ③個々の教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事例に基づいた主体的な研修を推進し、教育活動等に潜む課題の可視化を図り、教職員一丸となり信頼される学校づくりに努める。 ④本校の特色ある教育システムや内容等について、活性化の観点から今日的な意義や役割を検証し、強みは伸ばし、弱みは改善する。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	〔生産科学科、食品科学科、生活教養科、福祉科共通〕 ○ 基本的な生活習慣及び社会性が身についている者 ○ スポーツや文化活動等に優れており、入学後も継続して活動する者（生産科学科） ○ 将来、農業自営者となり、地域のリーダーを目指す者
--	---

	○ 動植物の飼育・栽培に興味・関心があり、積極的に実習に取り組むことができる者 ○ 農業に関連した職業や農業関連学科への進学を目指す者 ○ 資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 (食品科学科) ○ 将来、食品関連会社で製造や研究に取り組む技術者を目指す者 ○ 食の安全への意識が強く、清潔な身なりや整理整頓ができる者 ○ 与えられた仕事を最後までやり遂げる忍耐力と責任感がある者 ○ 資格取得や検定合格に積極的に取り組むことができる者 (生活教養科) ○ 衣・食に興味・関心があり、高校生活にしっかりとした目的・目標をもつ者 ○ 将来、専門性を生かした就職や進学を目指す者 ○ 全ての教科に対して、真面目かつ意欲的で、資格取得に積極的に取り組むことができる者 (福祉科) ○ 福祉に興味・関心があり、意欲的に学習に取り組むことができる者 ○ 将来、福祉分野で活躍しようという希望をもっている者 ○ 資格取得に積極的に取り組むことができる者
--	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導 の充実	(1) 教職員の授業力向上および授業改善に取り組み、生徒の授業満足度・授業理解度の向上を図るとともに、進路実現に向けた学力向上と資格取得に取り組む。 (2) 生徒による授業評価を実施する。 【活動指標】 ・ 生徒による授業評価を実施する。 【成果指標】 ・ 生徒意識調査で「授業は理解できている」平均 6.5p 以上 ・ 基礎力診断テスト（業者テスト）の指標『C3 以上』入学時比 10%増 ・ 福祉科介護福祉コース介護福祉士国家試験受験者全員合格	○ 生徒意識調査において「授業は理解できている」6.7p となり目標は達成。今後更に興味関心を引き出す授業展開が必要である。 ○ 基礎力診断テストにおいて、「C3 以上」の者が入学時より減少しており今後の取組について、見直しが必要である。 ○ 福祉科介護福祉コース介護福祉士国家試験受験者全員合格	
キャリア 教育の充 実	(1) 1 年生に対して、進路ガイダンス等を実施して、自分の進路希望実現に向けた進路選択ができるようコース選択や科目選択の指導・助言を行う。 (2) 2 年生に対して、外部講師を招いてのキャリアプランやインターンシップ等を通して自分自身の適正について理解するとともに進路決定に向けて主体的に取り組んでいく力を育む。 【活動指標】 ・ 進路ガイダンスの実施各学年年間 2 回以上	○ 進路ガイダンスや距離アップランについて予定通り実施できた。 ○ インターンシップについても 2 年生で実施し、発表会を行った。 ○ 進路の満足度調査においては、8p となり更なる改善が必要である。	

	・キャリアプラン（外部講師による講義）実施年間10回以上 ・インターンシップの実施（2年生で1回） 【成果指標】 生徒および保護者の進路満足度それぞれの調査で 8.5P 以上		
生き生きとした学校生活	(1) 基本的生活習慣の確立および社会人としてのマナーを身につける。 (2) 生徒や教職員がいつも活気にあふれ、活力のある学校生活を送ることが出来るよう環境を整備する。 【活動指標】 ・保健だよりの発行毎月1回以上 ・教育相談だよりの発行年間2回以上 ・生徒会によるあいさつ運動の実施年間10回以上 【成果指標】 ・生徒意識調査で「あいさつや場に応じた言葉遣いができている」と答えた生徒の割合 9.3P 以上 ・生徒意識調査で「校則の意味を理解し、しっかり守っている」と答えた生徒の割合 9.3P 以上 ・「明野高校の生徒はよくあいさつができる」と思う保護者の割合 95%以上 ・「明野高校の生徒は服装がしっかりしている」と思う保護者の割合 98%以上	○・保健だよりの発行毎月1回 ・教育相談だよりの発行年間2回 ・生徒会によるあいさつ運動の実施年間12回実施できた。 ○「あいさつや場に応じた言葉遣いができる」と答えた生徒の割合は 8.5p にとどまったが、本校のせいとのあいさつや服装の様子、また横断歩道を渡る際の姿勢について高い評価をいただいている。	

改善課題

- 本校が目指す姿を実現するための「基礎学力」とは何かを再設定する必要がある。
- 進路先指導にとどまらない「社会的・職業的自立」に向けた将来を見据えたキャリア教育のあり方を議論していく必要がある。
- 生徒指導提要が改訂されたことも踏まえ、本校として生徒に付けたい力を見据えた上で、指導のあり方を再構築していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例) 「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最

重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の取組	(1) 教職員の授業力向上に向けた取組の実施 【活動指標】教職員による校内授業研修会の年3回実施 (2) 人権研修会および特別支援教育研修会の実施 【活動指標】人権研修会、特別支援教育研修会の年3回実施 (3) コンプライアンス研修会の実施 【活動指標】学校信頼向上委員会の開催(随時)、コンプライアンス研修会年間2回実施、不祥事案の情報共有(随時) 【成果指標】 ・生徒意識調査における「授業内容に工夫があり、興味関心を引き出す授業が多い」8.3P 以上	○日々の授業において、積極的な授業改善を行う習慣を呼びかけた。結果として、生徒意識調査における「授業内容に工夫があり、興味関心を引き出す授業が多い」は、7.8p となった。 ○人権研修会等においては、各学期1回実施。また、夏期休業中に特別に部落差別解消に向けた研修会も実施。	

	・「明野高校に入学させて良かった」と思う保護者の割合 98%以上 ・「子どもは、生き生きと学校生活を送っている」と思う保護者の割合 98%以上	○保護者アンケートにおいては、「明野高校に入学させて良かった」「子どもは、生き生きと学校生活を送っている」それぞれが 98%となっている。	
情報提供による信頼の構築	(1) 学校ホームページによる情報提供 (2) 明野高校公式Instagramによる情報提供 【活動指標】学校行事ごとのホームページおよび公式Instagramの更新 (3) 高校生活入門講座の充実、授業公開、文化祭の一般公開 【活動指標】学校を見学できる機会年間 5 日以上 【成果指標】 ・学校ホームページアクセス数前年度比 110%以上 ・公式Instagramのフォロワー 800 以上	○学校ホームページやInstagramなどによる情報提供があまり行っていない。年数回の更新にとどまっている事が課題である。	
地域の企業および他校種等との連携	(1) 地域の事業所および他校種、住民との連携による地域の活性化と明るい話題の提供 【活動指標】本校生徒と外部企業との交流連携 30 件以上 本校生徒と他校種との交流連携 10 件以上 【成果指標】新聞等報道される件数年間のべ 50 件以上	○外部企業や小中学校などの他校種との連携は、およそ 50 件程度ある。また、今年度は、地域との連携にも積極的に行えた。マスコミ報道は、月 1 回程度にとどまった。	
働きやすい職場環境づくり	(1) 総労働時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。 (2) 学校全体の環境問題に取り組む。 (3) 高騰する光熱水費節減に取り組む。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 80%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 ・放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 ・学校全体のゴミ減量に向けた意識の醸成 ・節電、節水、エネルギー節約の意識醸成 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0 人 ・時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0 人 ・1 人当たりの月平均時間外在校時間 30 時間以下 ・1 人当たりの年間休暇取得日数 10 日以上 ・資源ゴミと廃棄されるゴミの分別の徹底による一般可燃物の量年間 15,000 kg 以下 ・電気・水道使用量の節減、前年比 95%	○・定時退校 94% ・部活動休養日 72% ・平均時間外労働 19.4 時間/月 ・月 45 時間超 52 人 (延べ人数) ・年 360 時間超 8 人 ・休暇取得平均日数 14 日/年 ○資源ゴミと廃棄されるゴミの分別の徹底による一般可燃物の量年間 8815 kg となり達成 ○暑さ対策のため電気・水道使用量の前年比 97.2% となった。	
改善課題			
○教員が授業力向上につながる研修を充実させ、生徒がそれぞれの学科の面白さを語れるようにする。 ○学校ホームページ等の充実を目指し、外部への積極的な情報公開を行う。 ○教員の部活動指導への取り組み方等を再検討し、過重労働時間減少に向けた取組を行う。			

○教職員の不祥事を自分事として捉え、本校として一層信頼される教職員集団へとしていけるように取り組む必要がある。

6 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次への 取組方向	○アンケート結果をどのように分析し、どのようにしていきたいかを明確にすると良い。 ○生徒のやる気を出すための取組を増やしていくと良い。 ○様々な取組に対して、結果をどのように出していくかということも生徒に教えて欲しい。 ○日頃から自然な形で挨拶ができるなど、地元住民から見ても評価できるので、継続して欲しい。
-----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動について の改善策	○各分野において実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人を育成する。 ○生徒一人ひとりの個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、生徒が自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支える。
学校運営について の改善策	①各分野において、体系的・系統的に理解させるとともに、関連させる技術を習得させる。 ②生徒のキャリア形成を見据え生徒の学ぶ意欲を高め、生徒同士の協議等自らの考えを深め、各分野における新たな創造を生み出す探究的な活動を行う。 ③授業において、生徒同士が、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団作りを促進し、自らの意見を述べたり、体験的な学習活動等において自らの仮説を立て検証する力を付けることにより、自ら考え、選択し、決定する力を養う。 ④教職員が、様々な研修を通して、様々な連携する相手への理解を深めたり、専門学科での学習に対する理解を深める。 ⑤教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事象を自分事として捉えるとともに、自分の行動に自信を持って教育活動にあたり、信頼される学校づくりに努める。